

オジロワシ・オオワシ保護増殖事業の 取り組みと課題

～特にバードストライク問題について～

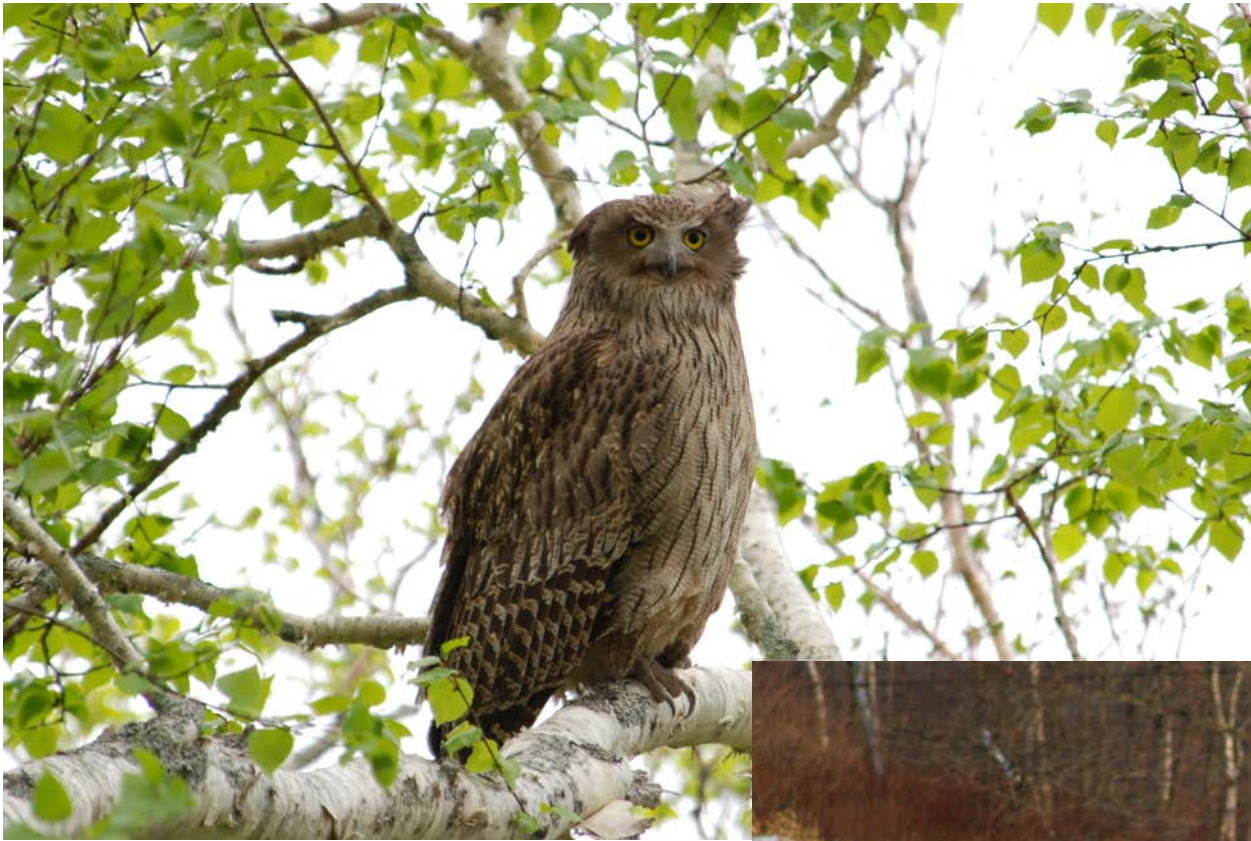


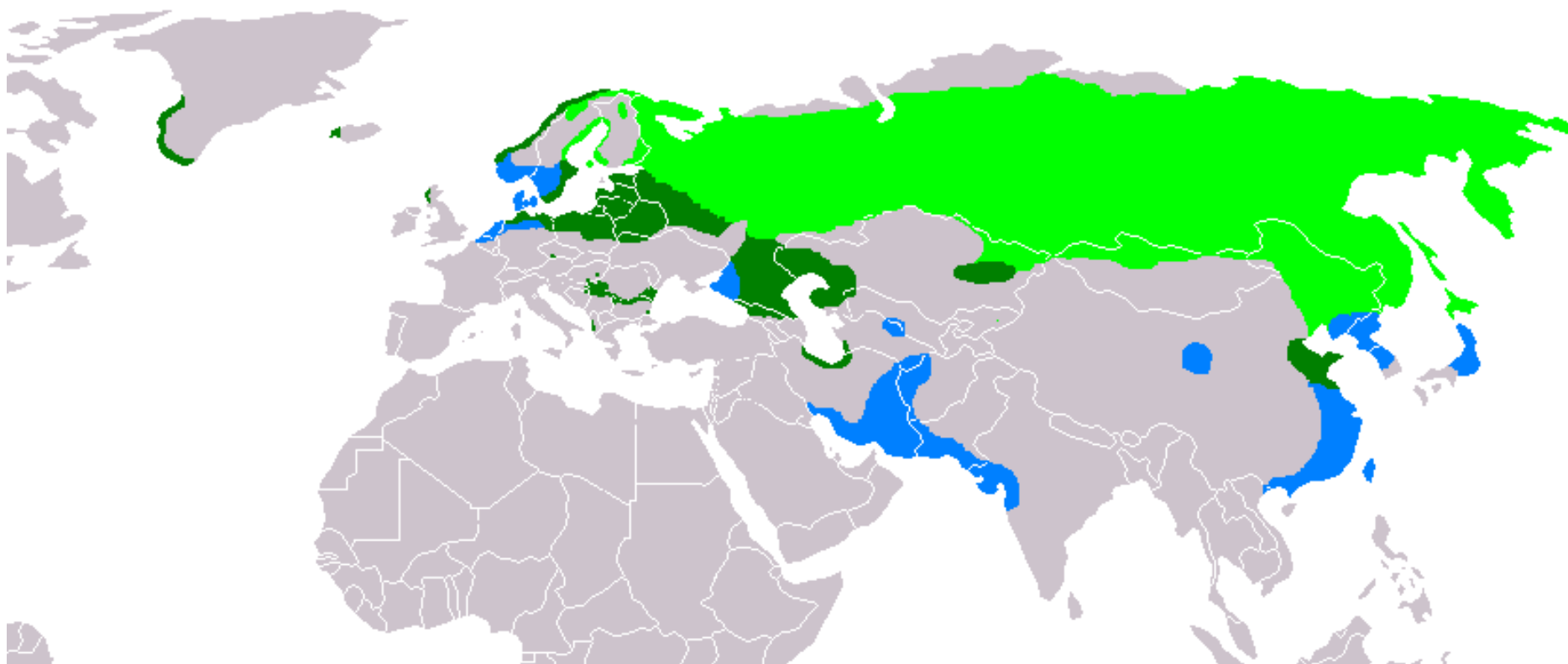
釧路自然環境事務所
野生生物課 課長補佐

小野 宏治

種の保存法による国内希少野生動植物種

	種数 Species	事業計画 Program	うち、道内 In Hokkaido
哺乳類 Mammals	5	4	0
鳥類 Birds	38	15	6
両生類 Amphibians	1	1	0
は虫類 Reptiles	1	0	0
魚類 Pisces	4	4	0
昆虫類 Insects	15	9	0
植物 Plants	26	16	1
合計 Total	90	48	7

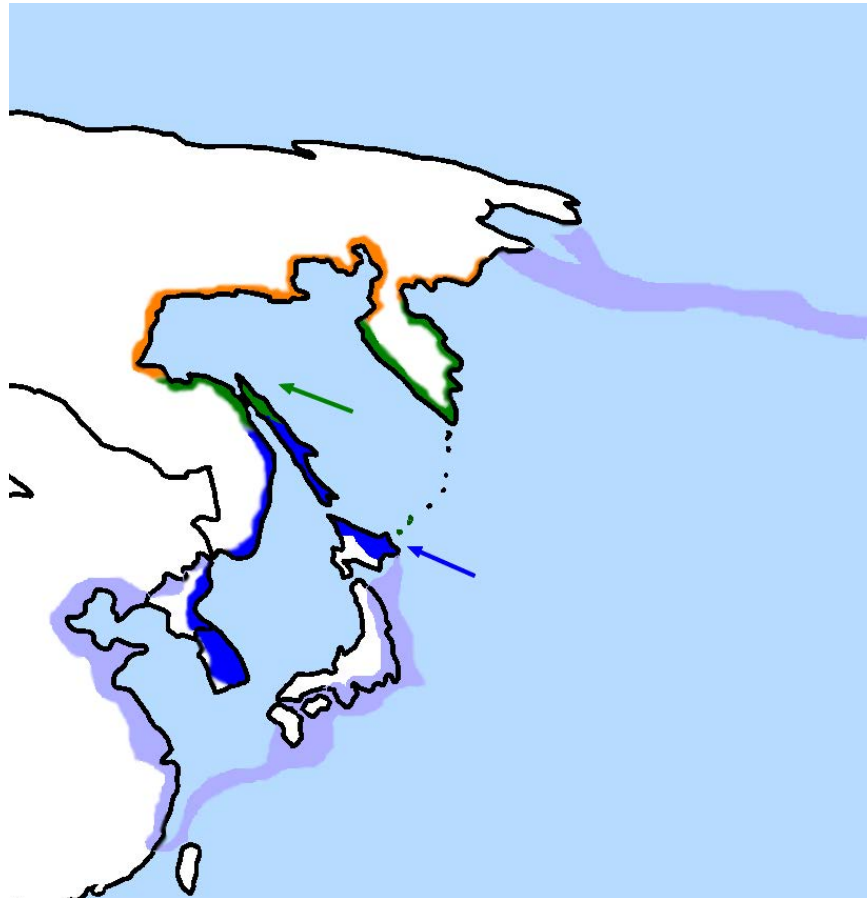




分布図はウィキペディアより引用

オジロワシ *Haliaeetus albicilla*

- ヨーロッパからアジア地域にかけて広く分布
- 保護の成果もあって世界的に増加傾向
- 国内でも繁殖つがいは増加しているが、一方で繁殖成績はかなり悪化
- 近年の白木氏等によるDNA解析で、道内個体群の独自性が高いことが判明してきた



分布図はウィキペディアより引用

オオワシ *Haliaeetus pelagicus*

- ロシア極東から朝鮮半島、中国に分布
- 総個体数は4,600～5,100羽と推定(IUCN)
- 日本は主要な越冬地

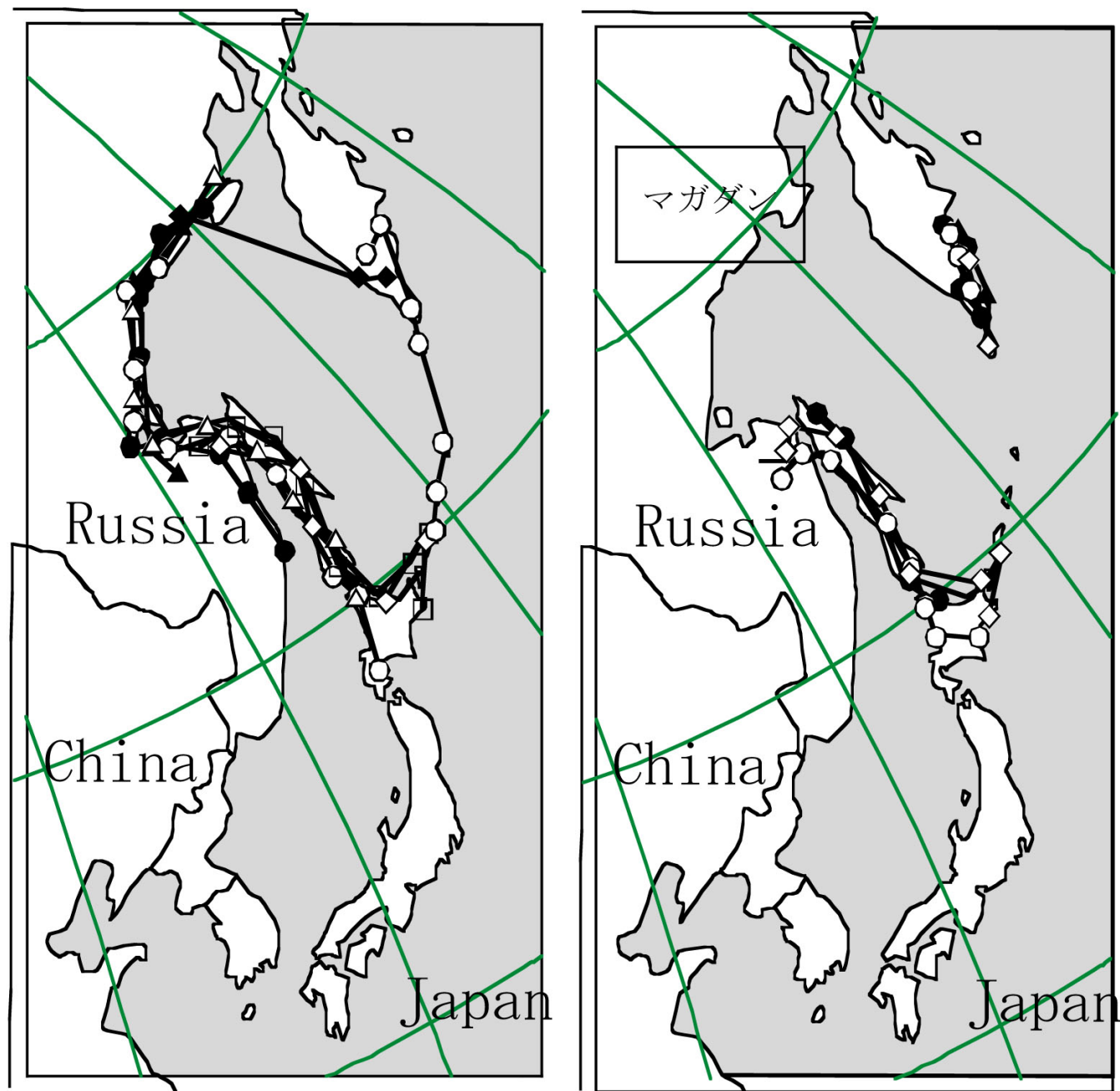
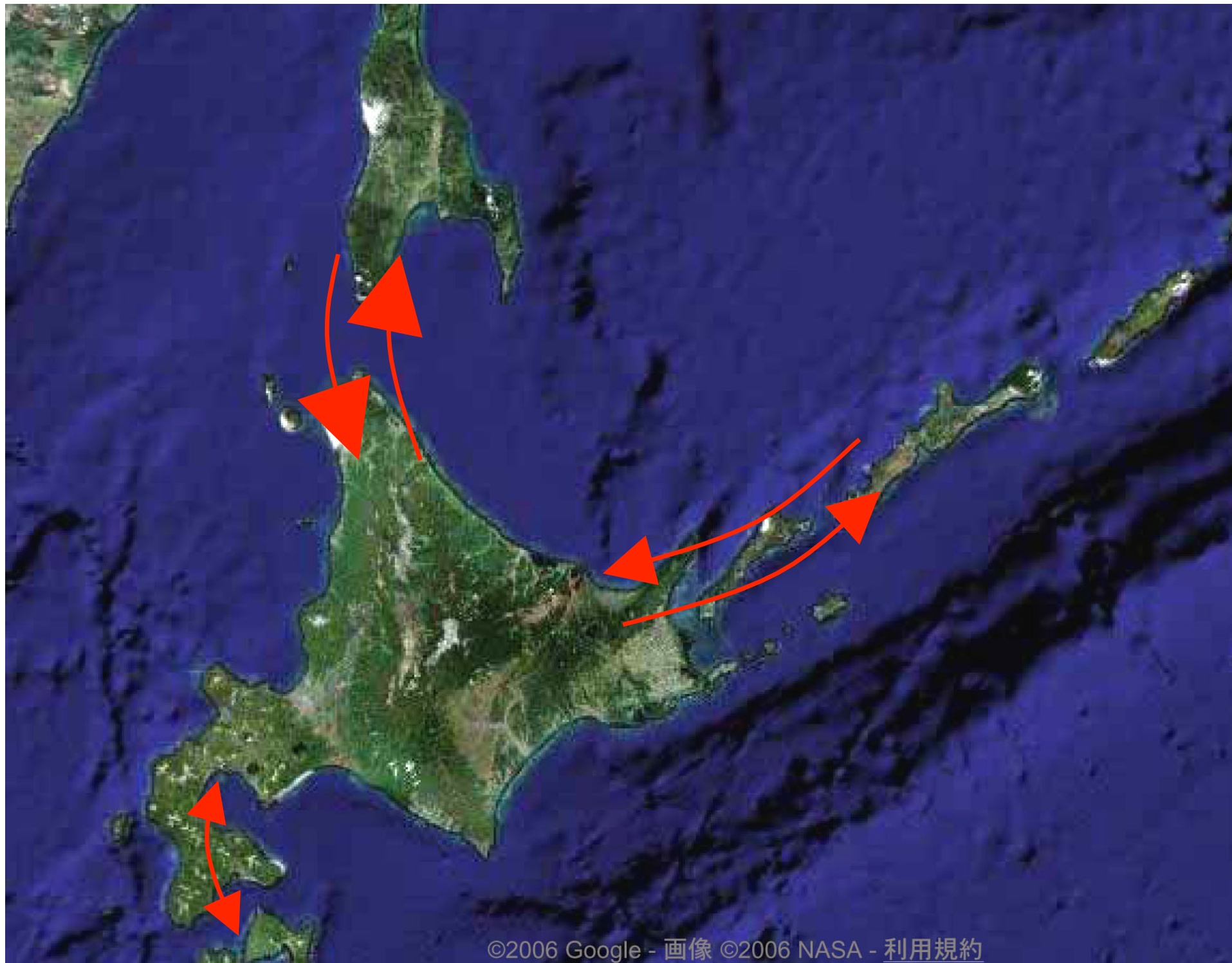


図9. オオワシの幼鳥の渡り経路^[11]

<左図は 1997 年に実施された調査結果、右図は 1998 年に実施された調査結果>



オオワシ保護増殖事業計画

文部科学省
農林水産省
国土交通省
環 境 省

第1 事業の目標

オオワシは、冬季に我が国へ飛来、越冬する大型の猛禽類で、春季にロシアに渡りオホーツク海周辺地域で繁殖する。主たる越冬地は北海道であるが、全国的に生息が確認される。

近年、開発等によるねぐら等の生息地の減少、鉛弾による鉛中毒、電線等への接触による感電事故、工作物への衝突、走行する車両との接触等による本種の死傷、人間活動に由来する餌資源に依存する傾向が強まっていること等により、本種の自然状態での安定的な存続が危ぶまれる状況にある。

本事業は、本種の生息状況及び生息環境を把握し、生息を圧迫する要因の軽減、除去等を行うことにより、本種が自然状態で安定的に存続できる状態とすることを目標とする。

海ワシ類の環境収容力が大幅に不足＝不安定な環境

現在の河川や湖沼

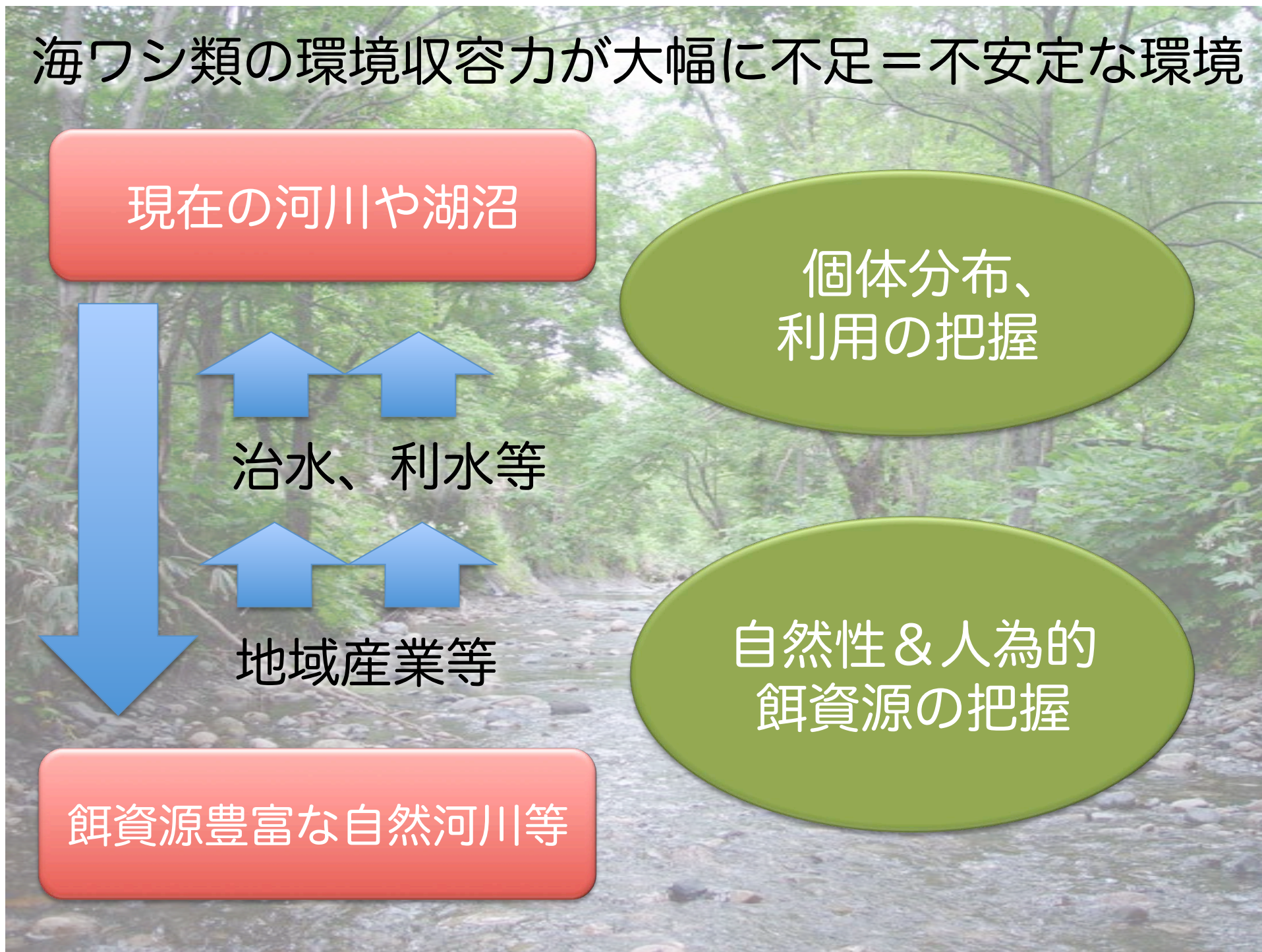
個体分布、
利用の把握

治水、利水等

地域産業等

自然性＆人為的
餌資源の把握

餌資源豊富な自然河川等







カモ類

エゾシカ

海鳥

- ・オオセグロカモメ
- ・セグロカモメ
- ・ウミネコ
- ・ミツユビカモメ
- ・ハシボソミズナギドリ
- ・ハイイロミズナギドリ
- ・フルマカモメ
- ・ハシブトウミガラス
- ・ウトウ

陸鳥

- ・ハシブトガラス
- ・ハシボソガラス

カモ類

エゾシカ



サケ

ウグイ



漂着海獣類

スケトウダラ

漂着海獣類

漂着魚類

春

夏

秋

冬



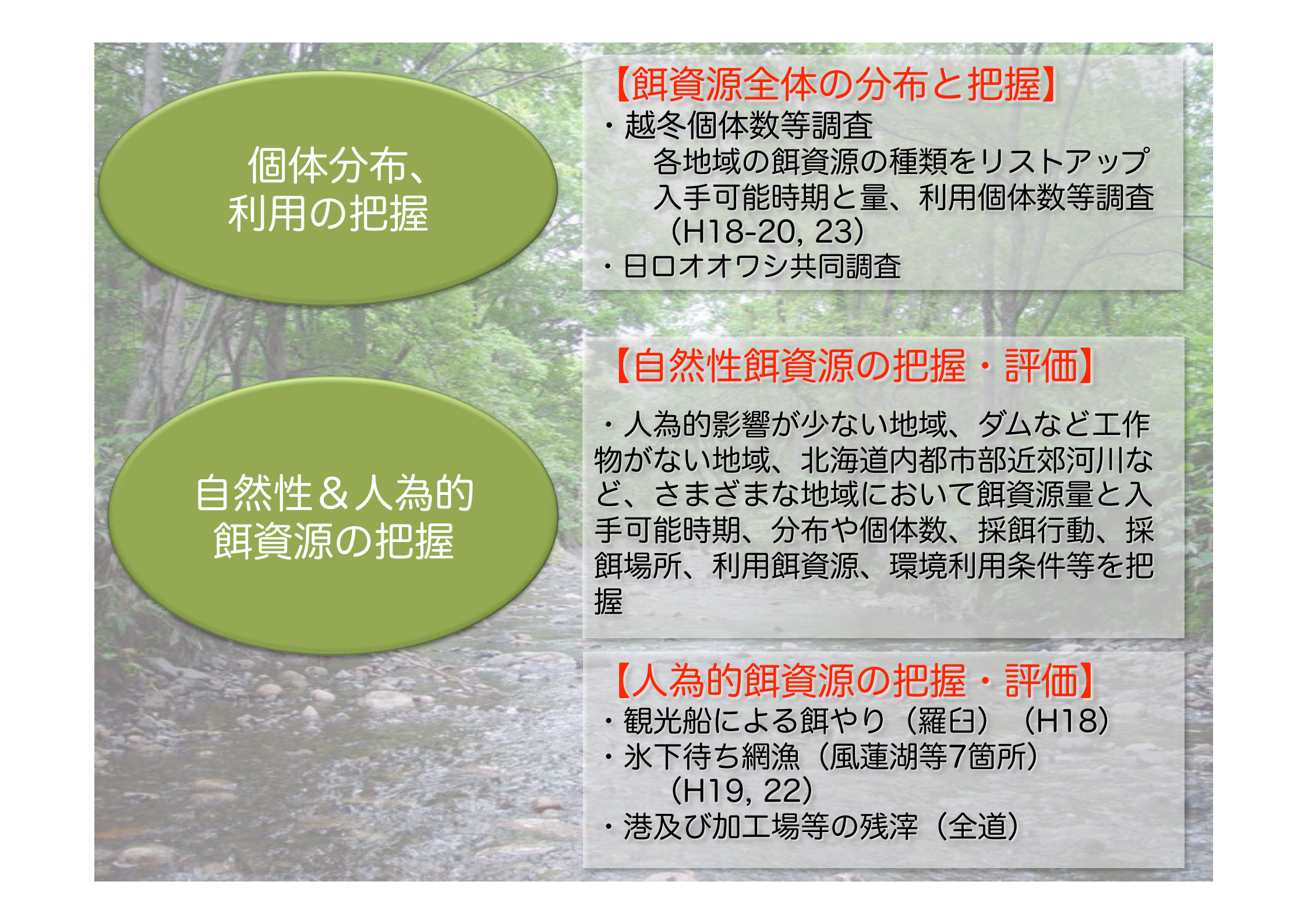
氷下待網漁

港・加工場からの残滓



餌やり

エゾシカ残滓



個体分布、 利用の把握

【餌資源全体の分布と把握】

- ・ 越冬個体数等調査
各地域の餌資源の種類をリストアップ
入手可能時期と量、利用個体数等調査
(H18-20, 23)
- ・ 日ロオオワシ共同調査

自然性&人為的 餌資源の把握

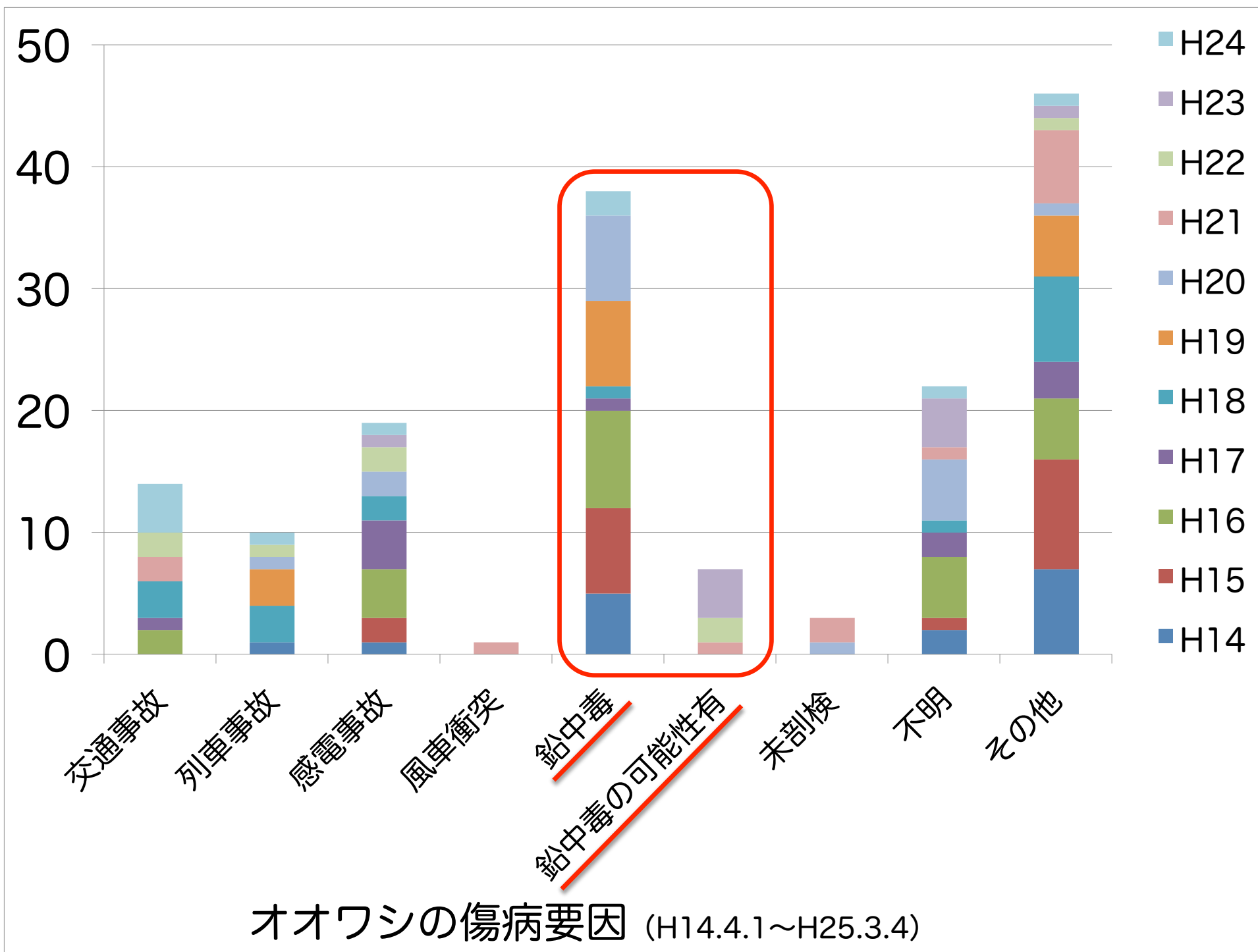
【自然性餌資源の把握・評価】

- ・ 人為的影響が少ない地域、ダムなど工作物がない地域、北海道内都市部近郊河川など、さまざまな地域において餌資源量と入手可能時期、分布や個体数、採餌行動、採餌場所、利用餌資源、環境利用条件等を把握

【人為的餌資源の把握・評価】

- ・ 観光船による餌やり（羅臼）（H18）
- ・ 氷下待ち網漁（風蓮湖等7箇所）
（H19, 22）
- ・ 港及び加工場等の残滓（全道）





オオワシの傷病要因 (H14.4.1~H25.3.4)



鉛中毒死したオオワシ

希少猛禽類の鉛中毒発生について
(お知らせ)

平成25年1月10日（木）

環境省釧路自然環境事務所

所長 西山 理行

野生生物課 課長 大林 圭司

担当：

野生生物課 課長補佐 小野 宏治

電話： 0154-32-7500（内2506）

野生鳥獣保護行政の推進につきましては平素よりご協力頂き厚く御礼申し上げます。

さて、当所ではオジロワシ・オオワシ保護増殖事業の一環として、傷病個体の収容及び各種検査を実施し、事故原因の究明と改善に努めているところです。

このたび、(別添1) のとおり1月6日（日）に釧路市阿寒町布伏内にてオオワシ^{ふぶしな}幼鳥の収容があり、釧路湿原野生生物保護センターにおいて血液による鉛中毒簡易検査を行ったところ、高濃度（0.6ppm以上※）レベルでの鉛が検出されました。オジロワシ・オオワシにおける鉛中毒個体の保護は今期初となり、現在治療中です。また、(別添2) のとおり、1月8日（火）に豊頃町湧洞にてオオワシ成鳥の収容があり、糞より比較的濃度の高い鉛が検出されたことから現在詳細検査中です。収容地点近傍で違法に鉛弾を使用したエゾシカ^{エゾシカ}が行われている可能性もあることから、関連行政機関に対してハンターへの指導徹底とパトロールの強化に関する注意喚起を行いました。

平成16年度狩猟期間より、ワシ類の鉛中毒死の発生を根絶するために、北海道ではエゾシカ用に限らず、全ての狩猟において大型獣捕獲用の鉛ライフル弾及び鉛散弾の使用が禁止されていますが、引き続き啓発についてご協力のほどお願いいたします。

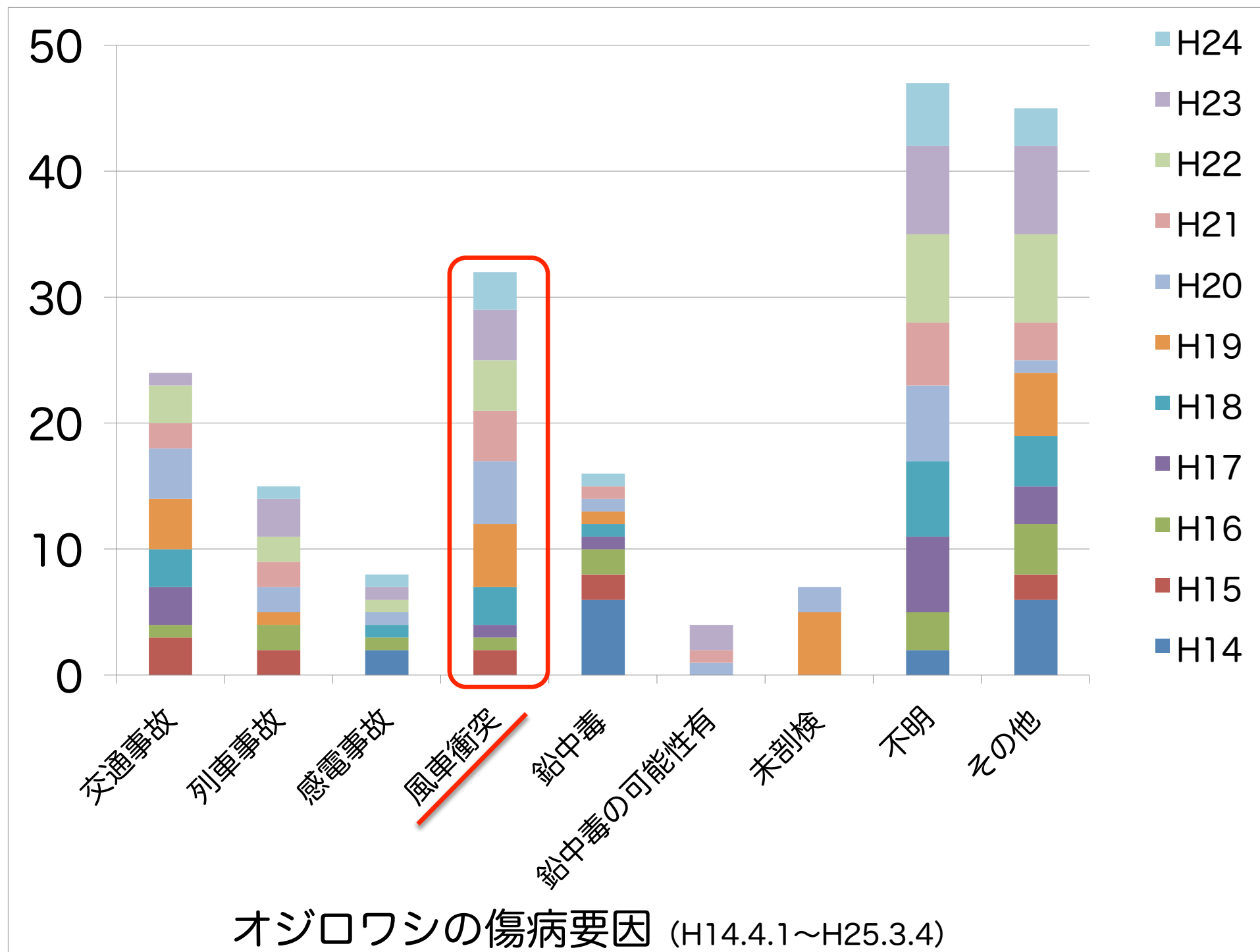




感電防止対策について、事業者との現地検討

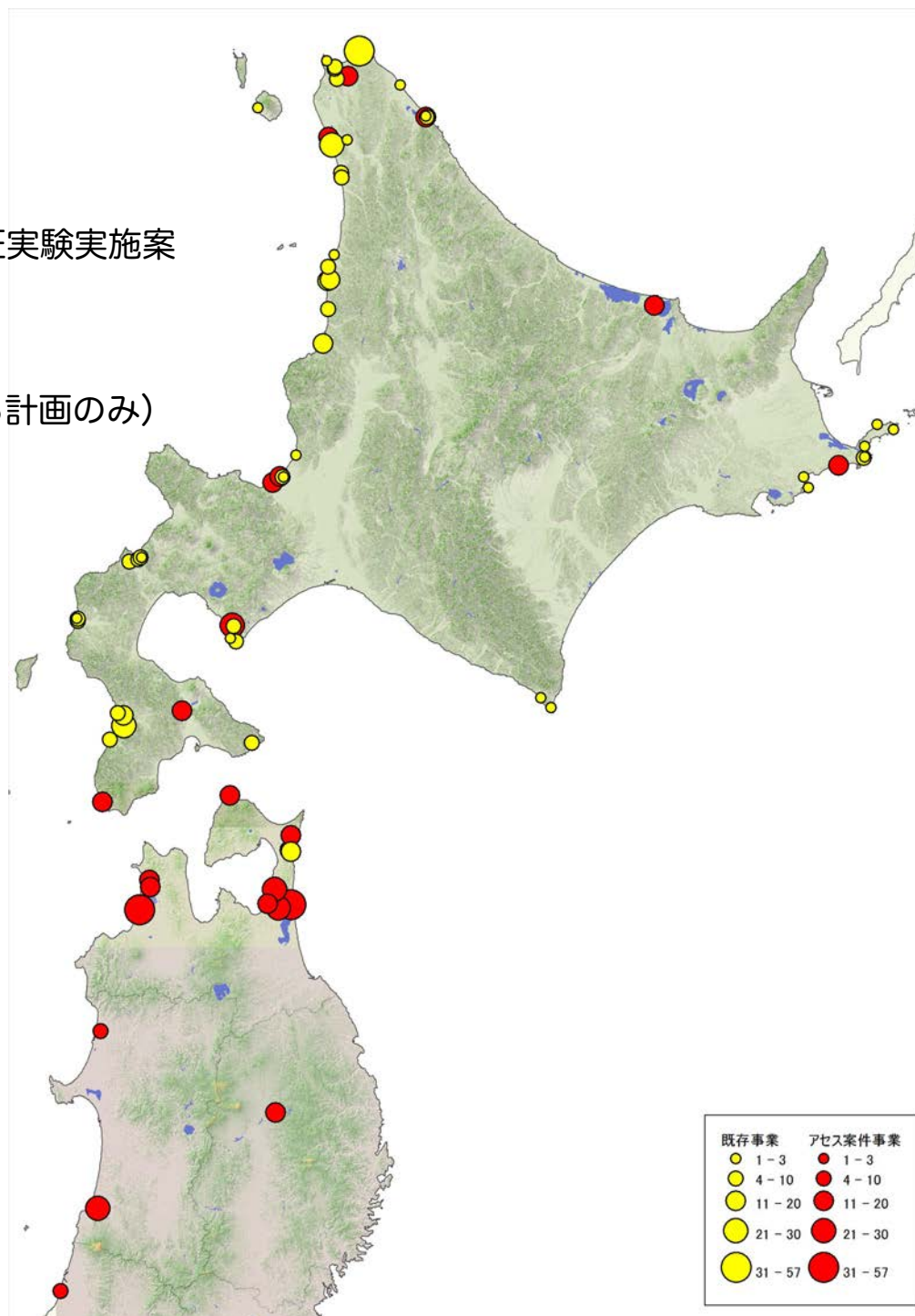


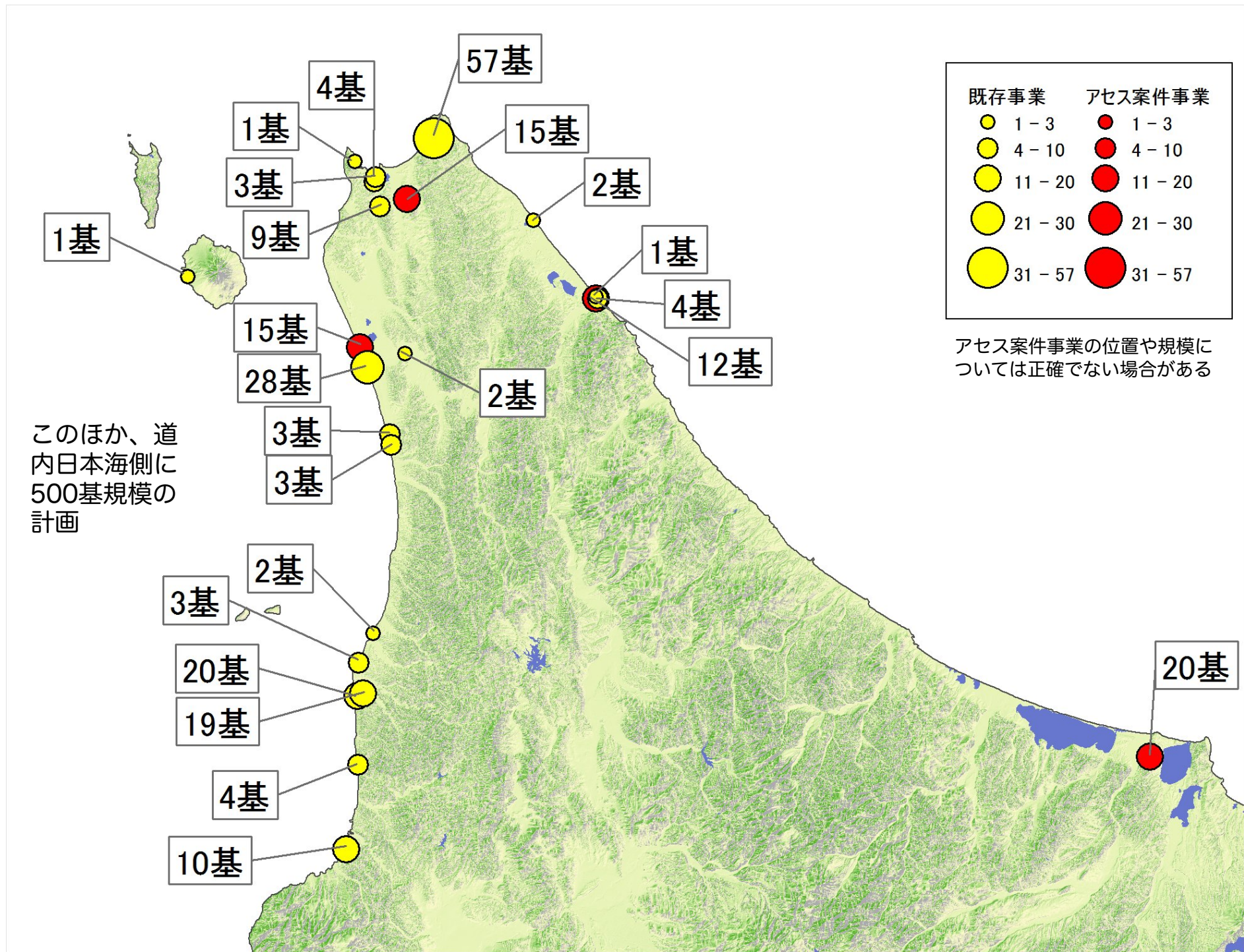


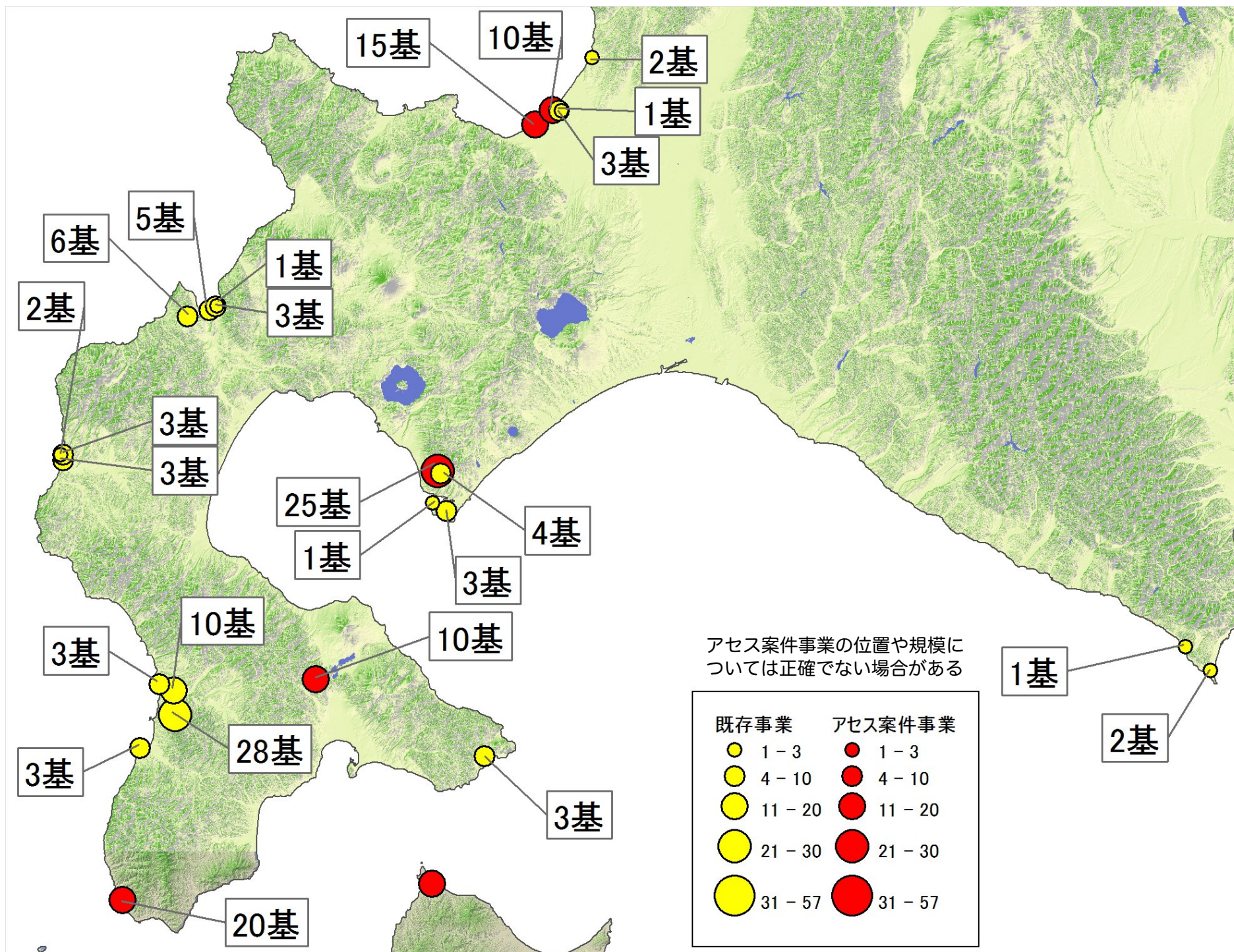


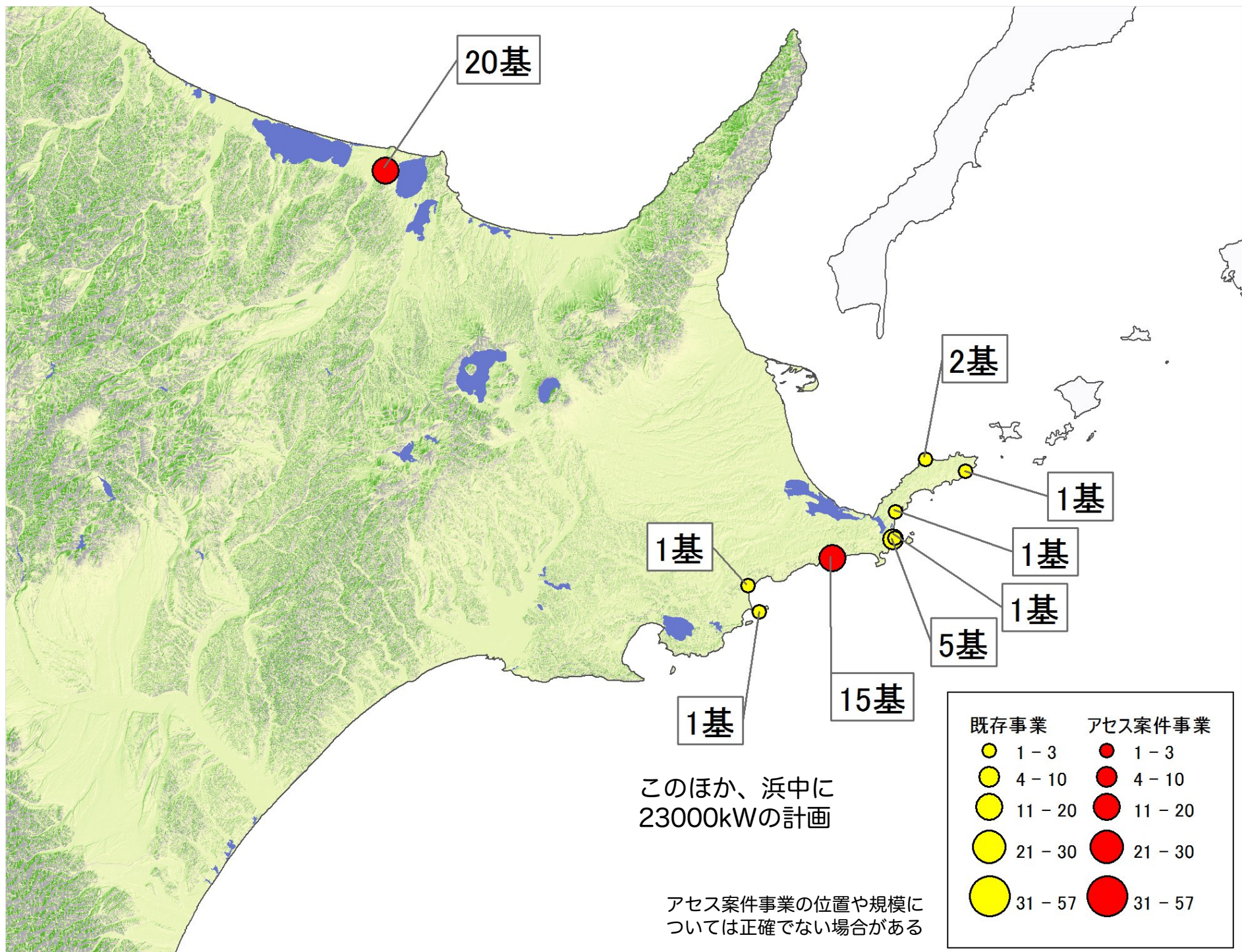
H25.3現在

- ・道内24件約850基
(方法書、準備書、実証実験実施案件、報道等を含む)
- ・東北12件251基
(準備書で示されている計画のみ)

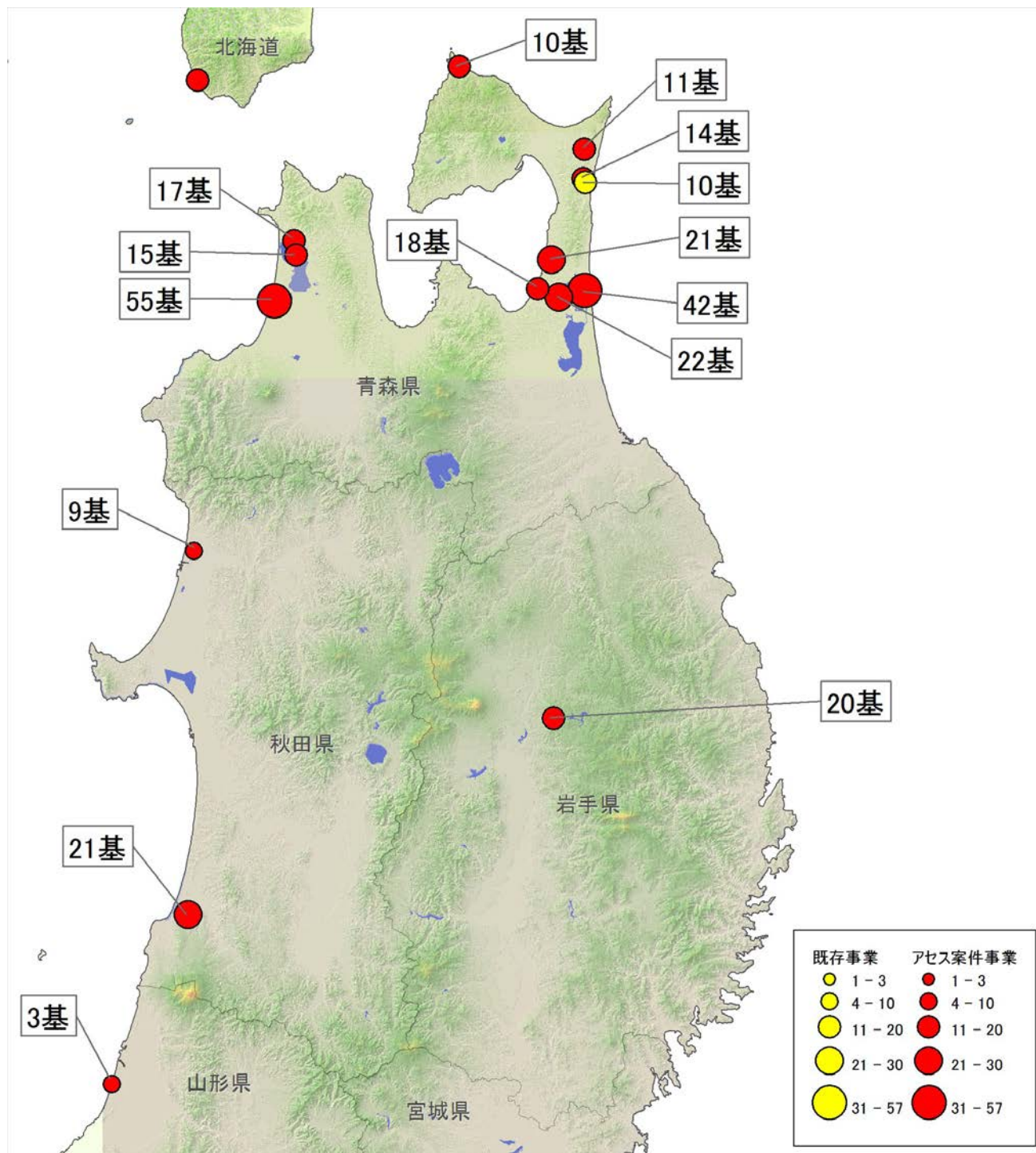








準備書で示されている計画
案件のみ掲載



アセス案件事業
の位置や規模に
ついては正確で
ない場合がある